

# 紙芝居の現状と課題 幼児教育における可能性

—埼玉県幼稚園・保育園を中心に実施したアンケート調査に基づいて—

正 司 顯 好

## "Possibility in the current state of Kamishibai and challenges early childhood education"

Based on the questionnaire survey was conducted mainly in kindergartens and nursery of Saitama Prefecture

SHOSU Akiyoshi

キーワード：紙芝居の本質、舞台を使つての実演、  
幼児教育の中での位置づけ

### 1 はじめに

2012年パリ・ユネスコ本部にて「ヨーロッパ紙芝居会議」が実現した。「4月2日、3日の二日間、パリで「ヨーロッパ紙芝居会議—平和のための紙芝居」が開かれた。フランスの「小さな丸い図書館」と「紙芝居文化の会」の共催によるものだった。フランス、スイス、オランダ、ドイツ、スペインの専門家たちの発表は、驚きの連続だった。図書館はもちろん、小学校、保育の場、高齢者施設、博物館でも活用され、移民や障がいのある人たち、時には女性受刑者とその家族を力づけるためにも使われているという。(中略)日本からは原爆の惨禍と平和への強い願いを描いた紙芝居「二度と」(松井エイコ脚本 童心社)が日本語とフランス語で演じられた。「ノーモア ヒロシマ ノーモア ナガサキ」と「ノーモア フクシマ」と日本の演じ手が願いを込めると、会場に集まった世界中の人々もみな声をそろえた。紙芝居が終わった後も、その思いが響き合っていたことが忘れられない<sup>1)</sup>

紙芝居は昭和5年頃、日本人の手によって、手書きの街頭紙芝居として生まれた。その後、時代の流れの中で街頭紙芝居、国策紙芝居、教育紙芝

居というようにかたちを変えながら今日まで継承されてきた日本固有の児童文化財である。それがここへきて世界に向けて広がりを見せている。世界の絵本作家たちは紙芝居に出会った瞬間に強い反応を示すようだ。絵本とは違う紙芝居の持っている本質を瞬時に見抜いた作家達は自分も紙芝居を手掛けたいという。作家だけにとどまらず図書館関係者をはじめ多くの市民活動家達にも受け入れられつつある。

しかし、日本の出版状況を見てみると絵本にくらべると紙芝居の創作、出版、研究が量的に圧倒的に少ないことは誰もが認めざるをえない状況にある。2013年の新刊絵本は1400点以上、紙芝居は80点程度、絵本は多すぎて選ぶのに迷い、紙芝居は少なすぎて困るというのが現状となっている。世界で評価されつつある紙芝居を今後さらに日本で発展させるためにも何が必要なのか、紙芝居と最も関係の深い幼児教育のなかでどのように取り組んでいくことが求められるのかについて考えていきたい。

### 2 調査の概要

#### (1) 調査目的

幼稚園や保育園に通園する子ども達が、言葉を獲得していく過程において紙芝居や絵本は欠かすことのできない児童文化財である。そこで現場の

保育者が、それぞれの特性・違いについて、どのように理解し有効に活用しているかについて明らかにすることを目的とした。<sup>2)</sup>

(2) 調査対象

埼玉県及び隣接地にある幼稚園6カ所、保育園8カ所に勤務している保育者234人(幼稚園102人、保育園132人)を対象とした。

(3) 調査方法

各幼稚園、保育園の理事長・園長先生方を通じ

て、選択式18項目、自由記述回答の調査紙を先生方に配付していただき、無記名で回答を得た後、郵送で回収した。

(4) 調査時期

2013年10月1日(火)～11月30日(土)の間に実施した。

(5) 調査上の配慮

本調査の実施においては、個人情報保護のため所属名、氏名は匿名になっている。

### 3 調査内容及び調査の結果

① あなたの年齢

② あなたの保育者としてのキャリア

③ あなたは、子どもに「紙芝居」を演じる時、どのようにして演じますか。

1. 絵本と同じように手で持つ      2. 紙芝居専用の舞台を使う      3. 手で持ったり舞台を使ったり、半々ぐらい      4. 時々、舞台を使って演じる

	1手に持つ	2舞台使用	3半々	4時々舞台
幼稚園合計	91人	0人	8人	3人
保育園合計	97人	4人	11人	15人
総合計	188人 (82.1%)	4人 (1.7%)	19人 (8.3%)	18人 (7.9%)

④ あなたが「1. 絵本と同じように手で持つ」を選んだ理由は、何ですか(複数回答可)

舞台を使わない理由		幼稚園	保育園	総合計
1	園に舞台が無い	37	45	82
2	忙しくて舞台を使う余裕がない	23	12	35
3	紙芝居を舞台と同じと考えている	8	13	21
4	舞台があることを知らなかった	4	2	6
5	舞台の使い方がわからなかった	2	6	8
6	舞台なしでも手で持って演じられる	32	35	68
7	舞台を使って演じるのを見たことがない	3	3	6
8	先輩が舞台を使っていない	11	4	15
9	舞台の移動が面倒・置き場が必要	4	17	21
10	舞台を使うと高さの調整が難しい	10	11	21
11	舞台が高価	1	0	1
12	その他	2	10	12

- ⑤ あなたが「2. 紙芝居専用の舞台を使う」を選んだ理由は、何ですか（複数回答 可）
1. 園内に舞台があるから 3人
  2. 何となく舞台を使った方が紙芝居らしくなるから 2人
  3. 紙芝居と絵本は、それぞれ特性が違うと考えているから 6人
  4. 私用の舞台を持っているから 1人
- ⑥ あなたが「3. 手で持ったり舞台を使ったり、半々 4. 時々、舞台を使って演じる」を選んだ理由は、何ですか（複数回答 可）
1. 園内に舞台があるから 21人
  2. 舞台を使った方が紙芝居らしくなるから 7人
  3. 紙芝居と絵本の違いをあまり深く考えたことがないから 2人
  4. 時間に余裕のある時は舞台を使うから 5人
  5. 先輩の保育者が時々、舞台を使っているから 3人
- ⑦ あなたは学生時代に「紙芝居」の演じ方およびその特性について学びましたか。
1. 深く学んだ 21人
  2. 一応学んだ 121人
  3. 記憶にない 92人
- ⑧ あなたは学生時代に「絵本」の読み聞かせ方およびその特性について学びましたか。
1. 深く学んだ 38人
  2. 一応学んだ 156人
  3. 記憶にない 40人
- ⑨ あなたは学生時代に「紙芝居（演じる）」と「絵本」（読み聞かせ）の特性と違いについて学びましたか。
1. 深く学んだ 15人
  2. 一応学んだ 87人
  3. 記憶にない 104人
- ⑩ あなたは⑨で「3. 記憶にない」を選んだ理由は、何ですか。（複数回答 可）
1. 紙芝居や絵本についての講座がなかった 73人
  2. 紙芝居や絵本について教えてもらえる講師がいなかった 62人
  3. 紙芝居や絵本についてあまり関心がなかった 3人
  4. 学ぶことが多すぎて紙芝居や絵本まで手が回らなかった 7人
- ⑪ あなたは保育現場で「紙芝居」と「絵本」のどちらを選んで子どもの教材として使用することが多いですか。
1. 紙芝居が多い 39人
  2. 絵本が多い 126人
  3. 同じくらい 69人
- ⑫ あなたが⑪で「1」を選んだ理由は、何ですか。（複数回答 可）
- ⑬ あなたが⑪で「2」を選んだ理由は、何ですか。（複数回答 可）
- ⑭ あなたが⑪で「3」を選んだ理由は、何ですか。（複数回答 可）
- ⑮ あなたは子どもに与える教材として紙芝居と絵本のどちらがイメージ的に上（優れている）だと思いますか。
1. 紙芝居の方が上 23人
  2. 絵本の方が上 33人
  3. 同じくらい 182人
- ⑯ あなたは「紙芝居」と「絵本」の特性について考えたことがありますか。

1. 深く考えている 33人 2. あまり考えていない 170人 3. 特性があることに気づいていなかった 14人 その他、17人

⑰ あなたは「紙芝居」と「絵本」の違いについて考えたことがありますか。

1. 深く考えている 35人 2. あまり考えていない 172人 3. 違いがあることに気づいていなかった 11人 その他、16人

⑱ あなたは「紙芝居」と「絵本」の特性と違い（演じ方、読み方等）についての研修があれば参加を希望しますか。

1. 希望する 123人 2. 希望しない 17人 3. どちらともいえない 88人

最後にアンケートに回答いただいた234人の保育者に「紙芝居」と「絵本」についての考えを自由に記述していただいたところ、93人（幼稚園：37人、保育園：56人）の保育者からそれぞれのご意見をいただきました。

#### 4 考察

平成26年5月31日（土）、6月1日（日）埼玉大学で『第19回紙芝居サミット』が開催された。「地域交流と紙芝居～有機的なつながりをもとめて～」というテーマで第19回紙芝居サミット実行委員会が主催し、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会等の後援を得ての開催となった。内容は第1セッションから第4セッションまでの構成になっており、分科会も一つ設定されていた。筆者は2日目、午前中の第3セッションを担当し「紙芝居の現状と課題、幼児教育における可能性」というテーマについて、3人の講師によるディスカッション形式で調査内容を討論し考察が深められた。

幼稚園・保育園の子ども達の教育と生活の支援をする立場から森田博理事長・園長<sup>3)</sup>、国内外を問わず異年齢の観客を対象に各地で紙芝居を演じてきた実演者の立場から中平順子子ども文化研究家<sup>4)</sup>、幼稚園教諭・保育士を育成する保育者養成校の立場から正司顯好教授（筆者）<sup>5)</sup>が、このテーマについて語り合った。

（正司） それでは、第3セッションを始めさせていただきます。ディスカッション形式になっておりまして、テーマは「紙芝居の現状と課題 幼児教育における可能性」ということになっております。進行については、私が今年の10月から11月にかけて埼玉県の幼稚園、保育園を中心に実施したアンケート調査に基づきまして討論を進めさせていただきますと思います。

調査の概要にも書かせていただいたように幼稚園6か所、保育園8ヶ所にそれぞれ勤務する234人の保育者が対象になっております。内訳は幼稚園102人、保育園132人です。これら現場の先生方を代表して本日ここに講師としてお越しいただきました先生がいらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。

春日部市からお越しいただきました庄和すずらん幼稚園、理事長・園長の森田博先生です。緑の森保育園も運営されています。現場の立場からご発言いただきます。どうぞ、よろしくお願い致します。

続きまして、もう一人の講師を紹介させていただきます。子ども文化研究家の中平順

子先生です。長年の紙芝居の演じ手、実演家としての立場からご発言いただきます。よろしくお願い致します。

それでは、さっそく内容にはいらさせていただきます。アンケート調査の設問①先生方の年齢構成についてですが、幼稚園は20歳代が64人(62.7%)と圧倒的に多く、保育園も20歳代が50人(37.9%)と多いのですが、40歳代が幼稚園8人(7.8%)に対し保育園は33人(25.0%)と多くなっていますので、年代別の年齢構成の全体のバランスは、保育園がよさそうです。幼稚園には、若い20歳代の先生方が集中しているようです。

次に設問②先生方の保育者としてのキャリアについてですが、幼稚園は1位が3年以上の22人(21.6%)、2位が4年以上の16人(15.7%)、3位が1年以上と5年以上が同数で15人(14.7%)となっています。保育園は1位が10年以上の30人(22.7%)、2位が5年以上の21人(15.9%)、3位が3年以上の19人(14.4%)になっています。10年以上のキャリアのある先生が幼稚園は23人(22.5%)に対し保育園は44人(33.3%)と多くなっています。では、そのような現場で紙芝居がどのように演じられているのか一緒にみていきましょう。

設問③あなたは、子どもに「紙芝居」を演じる時、どのようにして演じますか。という質問に対し「絵本と同じように手で持って演じる」と回答した先生が234人中188人(82.1%)おられますが、この数字について中平先生、如何ですか。

(中平) ただただ驚くばかりです。紙芝居の特性から考えますと、三面舞台を使って演じてほしいと思います。絵本も紙芝居も子どもに向かって作品世界を届けるというのは同じですが、届ける手法にかなり違いがあります。絵本は淡々とページをめくりながら

読み進めていきますが、紙芝居は画面を1枚1枚抜いて差し込む行為を繰り返しながら進んでいきます。

(正司) その画面の抜き方にも、作品の内容によってさまざまな工夫があるということですね。

(中平) そうです。その通りです。

(正司) 森田先生、現場の立場から如何でしょうか。

(森田) 設問④で紙芝居を絵本と同じように手で持って演じてしまうことの原因を答えていますが、最も多いのが「園内に三面舞台が無いから」が82人。次に「三面舞台が無くても手で固定すれば演じられるから」が67人と、この2つの理由が圧倒的に多くなっています。

現場の立場からは、この数字は納得できません。「園内に三面舞台が無い」理由のなかにも園長を含め三面舞台の存在を知らない保育者も残念ながらいると思われま。三面舞台を知っていても使い方がよくわからないので、手で代用できるかなと考えている保育者も多いと思います。

(正司) つまり、絵本の延長線上に紙芝居を捉えているということになりますでしょうか。

(森田) ええ、そうです。絵本と紙芝居は、なんとなく違うと感じてはいるけれど、どこがどう違うのかについての理解を深めている保育者は、まだまだ少ないと思います。だから、どうしても同じような扱いになってしまいます。

(正司) 確かに、アンケート調査の自由記述の中にも現場の先生方の声がありますので少し紹介させていただきます。

・「このアンケートに答えるなかで紙芝居と絵本が違うということに気づくことができました。紙芝居は演じるということだったんですね。」(9人) おられます。

・「紙芝居と絵本の違いをあまり考えていなかったので、これからは考えて使用した

い」(8人)おられます。

・「このアンケートを実施するまで特性や違いなどについて、ほとんど気にしていませんでした。改めて、紙芝居と絵本の特性と違いを学びたいと思いました。」(7人)おられます。と、書いてくださいました。今回のアンケート調査の中では、紙芝居と絵本の特性と違いについての具体的な説明は一切ないのですが、アンケート調査中に両者の違いを敏感に感じ取って素直にその内容について学びたいと書いて下さったことにとっても感謝しています。子ども達の利益のために必要なことは素直に学んでいこうという先生方のひたむきな姿勢と情熱にさらに感銘を受けました。

今度は、逆に設問③で紙芝居を演じる時は必ず「紙芝居専用の三面舞台を使って演じる」という先生が234人中4人(1.7%)ですが、おられます。この数字については、中平先生、如何ですか。

(中平) もっともっと、そういう方が増えていてほしいと思います。ご飯を食べる時お茶碗が必要のように、茶道でも華道でもその道を極めるためには道具は必要なものです。目的を達成するために道具をいかに使いこなすかに演じ手の意識が集中していきます。三面舞台の使い方を極めることで作品世界が凝縮された話として子ども達の心に結実していきます。

(正司) 森田先生、如何でしょうか。

(森田) 全く同感です。「ご飯を食べる時、お茶碗が必要なように…」三面舞台を使うというのは、とても判りやすいお話かと思えます。

(正司) ありがとうございます。では、これまでのところを簡単に整理しますと、アンケートに答えて下さった先生234人中、紙芝居を「絵本と同じように手で持って演じる」先生は188人(82.1%)。必ず「紙芝居専用の三面舞台を使って演じる」先生はわ

ずか4人(1.7%)。「手で持って演じたり、三面舞台を使って演じたり、半々ぐらい」または「時々、三面舞台を使って演じる」先生は37人(16.2%)という結果でした。三面舞台が現場で使われない理由を分析していくと、紙芝居と絵本の特性・違いが理解されていないが故に「園内に三面舞台が無かったり」絵本の延長線上に紙芝居を捉えて、どちらも手持ちで読んだり演じたりしているという実態がみえてきました。そこで現場がなぜそのようなことになっているのかその原因を探っていきたいと思います。

・設問⑦あなたは学生時代に「紙芝居」の演じ方及びその特性について学びましたか。という質問に対し「深く学んだ」「一応学んだ」と回答した先生が142人(60.7%)おられます。

・設問⑧あなたは学生時代に「絵本」の読み聞かせ方及びその特性について学びましたか。という質問に対し「深く学んだ」「一応学んだ」と回答した先生が194人(82.9%)おられます。

ところが、さらに踏み込んで

・設問⑨あなたは学生時代に「紙芝居」(演じる)と「絵本」(読み聞かせ)の特性と違いについて学びましたか。という質問に対し「あまり学んだ記憶がない」と回答した先生が104人(50.5%)と一転して過半数を超えました。具体的に「特性と違いについて」となると記憶があいまいになり、学んだ内容に自信がなくなる傾向になりました。

その理由をさらに踏み込んで質問すると

・「学生時代に紙芝居や絵本についての講座がなかった」(73人)

・「紙芝居や絵本について教えてもらえる講師がいなかった」(62人)

という結果になりました。この結果については中平先生、如何ですか。

(中平) 日本の歴史をさかのぼると日本人の心の中にヨーロッパ思考という意識が根強く残っていて絵本の方が文学性が高く、その分日本で生まれた紙芝居がおろそかにされた歴史があるから、本格的に学ぶ機会がなかったのではないかと考えます。紙芝居の理論などが成立しておらず、紙芝居が演歌の流しのように捉えられていた時代が長かったようです。大人の娯楽としての紙芝居もあったし、演じ手が日銭を稼がなければならないという質の低いものもあった。また、戦争中に国策紙芝居として利用されたものがあったのも事実です。そういう玉石混合の土壌の中で紙芝居の本質的な素晴らしさに気づいた人が少なかったと思います。

今、ヨーロッパで紙芝居を評価している人は紙芝居を本物の児童文化財として捉えている人が多いです。ほんものの紙芝居の素晴らしさは、人間をつくり直すくらいのごさがある。他者が関わることで、人間性を取り戻すことが成立する世界が紙芝居にはあると考えています。

(正司) 現場の立場で森田先生、如何でしょうか。

(森田) はい、私も園長として本園の先生方全員に、学生時代どの程度まで紙芝居と絵本について学ぶ機会があったのか聞いてみました。

結果は、ほとんどの人が絵本については学んだが紙芝居について詳しく学んだ記憶がないというのが正直なところでした。実際の紙芝居を見せられて、紙芝居はこういうものだという紹介はあったが、特に、紙芝居の形式・特性・進行等について具体的には学ばなかったようです。ですから、本園に就職するまで、または本園が園内研修で紙芝居に取り組むまでは、どうしても手軽に読めてしまう絵本を選んで子ども達の教材として使用している先生が多かったというのも事実です。また、絵本は紙芝居に比

べ本屋でも手軽に自分の好みのものを購入できるというメリットもあり、どうしても絵本に比重が傾いてしまうという傾向があります。

(正司) では、大胆に紙芝居を園内に導入されたことで、子ども達に何か変化はありましたでしょうか。

(森田) はい、ありました。「生活」をテーマにした紙芝居などは、演じ終えた時点から子ども達に大きな影響を与えます。例えば6月の梅雨時に「ばいきんこわいぞ」(脚本・稲庭桂子、絵・久住卓也)を演じると子ども達の手洗いが変わります。爪の中の汚れまでしっかり水で洗い流すようになります。「おおさまさぶちゃん」(作・馬場のぼる)を演じますと、すぐに洋服の着替えに変化が現れます。一人で洋服が着られない子がいると「おおさまさぶちゃんに、なっちゃうよ」と周囲の子ども達から声がかかります。先生も応援しながら、みんなで頑張れるようにクラス運営していきます。

(正司) では、演じ手の立場から紙芝居の影響力について、中平先生お願いします。

(中平) 私自身も紙芝居の演じ手として各地を訪問する機会に恵まれましたが、こんな貴重な経験をさせていただきました。

ある県立病院の小児病棟のホールで入院加療中の子ども達を対象に紙芝居を演じたことがありました。そのなかにベッドで寝たきりになった男の子が母親に付き添われて参加してくれました。よだれが垂れて、目は見開いたまま全く反応がありませんでした。3本の紙芝居の最後に「ごきげんのわるいコックさん」(作・まついのりこ)を演じ終えて、花束をいただいて帰ろうとした時、突然その母親が「○○ちゃん」とわが子の名前を叫んだのです。私を含めみんなびっくりして駆け寄ってみると、今まで全く無表情でビー玉のように見開いたままの状態だった目から、溢れんばかりの涙が

出てほほを伝って流れ落ちたのでした。その様子を見ていた母親が驚いてあげた叫び声でした。医師も看護師もやってきましたが原因は解らないようでした。しかし、私はその時、「紙芝居の力」をはっきりを実感しました。

(正司) 紙芝居には、いろんな力があるのですねえ。「人間性を取り戻し」「人間をつくり直す」くらいの力があるというのは、こういうことだったのですね。そんな素晴らしい力の源になっている紙芝居の特性とは何かについて引き続き探っていきたいと思います。

・設問⑯あなたは「紙芝居」と「絵本」の特性について考えたことがありますか。という質問に対し「あまり考えていない」「特性があることに気づいていなかった」と回答した先生が 234人中184人(78.6%)おられます。

・設問⑰あなたは「紙芝居」と「絵本」の違いについて考えたことがありますか。という質問に対し「あまり考えていない」「違いがあることに気づいていなかった」と回答した先生が 234人中183人(78.2%)おられます。

これは冒頭で話題になった「紙芝居」を「絵本」と同じように手で持って演じている 188人とほぼ同数になっていますので、両者の間に深い関連性があると考えられます。さらに、

・設問⑱あなたは「紙芝居」と「絵本」の特性と違いについての研修があれば参加を希望しますか。という質問に対し「参加を希望する」と回答した先生が123人(52.6%)おられますので、今回はせっかくの紙芝居サミットということもあり、ここでもう一度「紙芝居」と「絵本」の特性と違いについて中平先生から簡潔に解説をお願いしますでしょうか。よろしくご祈願致します。

(中平) 紙芝居は本や絵本のように閉じられてはいません。一枚一枚バラバラで、絵はお話に合わせて描いてあります。(作品はだいたい8～12～16場面構成されています。)

紙芝居は、表に絵があり、裏側に絵のお話を書いてあります。そのお話は、演出の伴った脚本になっています。演じ手が、脚本に合わせて場面を抜くと、作品世界は観客の方へ出て行って広がります。抜いた場面を舞台後ろに差し込むと、次の場面が現れ、観客は次の展開へ自然に集中していきます。

その紙芝居の形式は、演じ手が観客と必然的に向き合い、一場面ごとに出て行って広がる臨場感あふれるコミュニケーションの演出空間をつくります。形式からくる紙芝居の特性によって、演じ手も観客も、作品世界への共感を深め合います。

(正司) ありがとうございます。ここまで、「紙芝居の現状と課題」に基づきながら紙芝居の特性についてさらに踏み込んで理解を深めていただきましたが、最後に紙芝居の「幼児教育における可能性」について現場の立場から森田先生、如何でしょうか。

(森田) はい、子ども達が生まれて初めて言葉を獲得していく過程において紙芝居は、とてもよい働きをしてくれますし、言葉を楽しく学んでいくことになります。たとえば、まついのりこさんの「おおきく おおきく おおきくなあれ」という紙芝居ですが、いきなり「ちっちゃい ちっちゃいぶた」が登場します。犬や猫は知っているけど豚は初めて見るという子どもも多いわけですが、画面は無背景で豚しか描かれていませんから、子ども達はこの愛嬌のある生き物に目が釘付けになります。「ワンワン」「ニャーニャー」ではなく「ブーブー」と鳴く。みんなで心をつなげて「おおきく おおきく おおきくなあれ」というと



2場面目で豚の願いがかなって大きく変身する。子ども達は、2場面目で「ワー」と感動するんです。たった2場面だけで、豚という言葉と「ブーブー」という鳴き声と愛嬌のある姿と感動をその場にいる友達と一緒に共有することになります。このように、遊びながら言葉を学ぶことは、幼児教育の原点ではないでしょうか。そのためにも、現場の保育者達が、紙芝居の特性を深く理解し三面舞台を使ってよい作品を子ども達に手渡していく必要性を強く感じます。

(正司) ありがとうございます。紙芝居の「幼児教育における可能性」について中平先生、如何でしょうか。

(中平) 今回、紙芝居サミットの特別講師としてお招きした教育学者の太田堯先生<sup>6)</sup>は「紙芝居は教育の基軸だ」とおっしゃっています。紙芝居を演じることによって「自分を引きだし」「観客からも引きだす」ことができる。「双方向で感性を育て合うことができる」とおっしゃっています。

紙芝居を演じることは、演じ手が作家の作品世界を深く理解し、観客に心を込めて作品世界を手渡していくことです。つまり、紙芝居を演じる人間の人間性が磨かれれば磨かれるほど作品世界への理解の深まりにつながり、そのことが幼児「教育の基軸」を担うことになるんだと考えます。そういった視点をもった保育者を一人でも多く育成していくことが、これからの幼児教育における大きな課題になっていくだろうと考えます。

(正司) 中平先生のお話のように、これからは保育者を育成していく養成校の果たさなければならぬ役割がますます重要になってくるだろうと思われます。現場で子ども達に感動を手渡せる紙芝居が演じられる保育者を一人でも多く教育していけるよう努力していきたいと考えています。

・(アンダーラインの部分は、本調査結果の数字に対する考察であり、さらに紙芝居の形式、特性、本質および幼児教育の課題等に関わる内容になっている。)

現場の保育者の認識する紙芝居と絵本の特性と違いを中心に調査内容①～⑱の設問を設定したが、保育現場において保育者が舞台を使わないで紙芝居を演じているという状況は234人中188人(82.1%)という驚くばかりの結果になった。保育現場が、何故そのようなことになっているのか。その理由をさらに調査すると、1位が「園内に舞台が無いから(82人)」2位が「舞台が無くても手で持って固定すれば演じられるから(67人)」3位が「忙しくて時間に追われて舞台を使っている余裕がないから(35人)」という結果になった。

さらに調査内容を見ていくと学生時代、保育者養成校で紙芝居と絵本の違いについて学んだ記憶がないという保育者が104人(50.5%)になった。「学んだ記憶がない」理由については、紙芝居や絵本についての講座がなかったという保育者が73人おり、次いで紙芝居や絵本について教えてもらえる講師がいなかったという保育者が62人と多かった。これは保育者養成校側の今後の大きな課題でもある。

保育者養成校を卒業した後、就職して現場で働きながら、日常の保育活動の中で紙芝居と絵本の特性について、あまり考えないで保育している保育者が184人(78.6%)おり、紙芝居と絵本の違いについてあまり考えないで保育している保育者が183人(78.2%)になった。紙芝居と絵本の特性と違いについて、あまり考えないで保育している保育者が184人、183人とほぼ同数になっており、学生時代の104人より増加しているのも気になる場所である。現場で保育をしていても先輩保育者から紙芝居の演じ方や絵本の読み聞かせについて助言をもらえるような現場環境にないことが、森田園長の発言からも容易に推測することができる。

この現場の180人を超える実態こそが、最初のアンケート調査にあった、紙芝居を舞台を使わないで手持ちで演じてしまう保育者188人を裏付ける根拠になっていると考える。この結果についてアンケート調査を実施させていただいた各園長にも意見を求めたところ「保育現場においては、まだまだ紙芝居と絵本の特性と違いについての理解が深められないまま、ただ何となく絵本の延長線上に紙芝居をとらえている保育者が多い」という共通した意見が大多数であった。

以上のことから、子どもに直接かかわる保育現場において保育者が紙芝居と絵本の特性と違いについての理解が、まだまだ深められていないという実情が明らかになってきた。特性と違いが理解されなければ、それぞれの児童文化財を有効に活用することができないのは当然である。保育者は誰もが紙芝居や絵本の世界を、子ども達によりよく手渡していきたいと願っているのであるが、その違いや特性が理解できていなければ子ども達に作品世界を手渡す方法すら解らないのも当然である。一方で、そのことについて悩んでいる保育者も多いし、研修の機会を強く望む声も多いのである。その声に応えるためにも毎年、新しい保育者を現場に輩出していく保育者養成校の果たさなければならない役割は大きいといえるのである。

## おわりに

実際に、第19回紙芝居サミットが開催された直後、地域の幼稚園協会からのお声掛けで現場の保育者120名を対象に「幼児教育における紙芝居の可能性」というテーマで紙芝居の形式・特性・演じ方・作品解釈等について講演させていただいた。終了後、簡単な自由記述のアンケートを実施したところ「これまでの、もやもやしていた疑問点が解消されて、すっきりした」「今日学んだことを明日からの教育活動の中で、すぐに取り入れ実践していきたい」等、大変喜んでいただいた。

最後に、これまで紙芝居の普及に努めてこられた紙芝居作家、編集者、ボランティアを含む多く

の演じ手（実演者）にとって、今回の調査結果が、さらなる保育現場での紙芝居の普及に向けて大いなる可能性を広げる契機となることを期待したい。

## (注)

- 1) 野坂 悦子「ヨーロッパ紙芝居会議報告」紙芝居ネットワーク会報37号・紙芝居文化推進協議会 2012. 9
- 2) 正司 顯好『「紙芝居」を「絵本」との違いから考える』（調査報告）—現場の保育者の視点を中心として— 小池学園研究紀要12号 2014.3
- 3) 森田 博（もりた ひろし）
  - ・元 公立中学校教諭・元 全埼玉私立幼稚園連合会理事
  - ・現在 庄和すずらん幼稚園 理事長・園長
  - ・ライフワークとして JAL ホノルルマラソン 連続13回出場
  - ・全埼玉私立幼稚園連合会 理事として20年を超える在任期間中に県内の各園長先生方と交流を深め、連合会発展に寄与した。園内では、毎月「紙芝居」についての園内研修を実施し、各クラスに三面舞台を導入し「紙芝居」の楽しさを子どもたちに手渡し続けている。園内における「紙芝居」の蔵書数は、800冊を超えている。
- 4) 中平 順子（なかひら よりこ）
  - ・子ども文化研究家
  - ・ファッションコーディネーターで活躍。結婚後子育ての中で子ども文化に魅せられ、「手作り絵本・紙芝居・草花遊び」の活動を始める。生きる喜びを育む「感動する心との出会いづくり」をモットーに公演・講座に取り組み、国内外の教育機関・図書館などからの講演依頼が多い。35年以上にわたり3,000回以上の紙芝居を演じ続けている
  - ・紙芝居サミット事務局・紙芝居文化の会運営

- 委員・紙芝居グループ「紙ふうせん」代表
- ・「アジアの文化を守り育てる会」代表・さいたま子ども文化研究所主宰
  - ・主な著書 「アイデアてづくり」「教科研究生活科・草木花と遊ぶ」(学校図書刊)
  - ・「ゆかちゃんの花かんむり」(紙芝居・童心社刊)「こうちゃんのはたけ」(紙芝居・北巢本保育園刊)「乳幼児の成長と発達」(DVDメディアファイブ刊) 他

(参考文献)

まついのりこ「紙芝居・共感のよろこび」童心社  
1998.9

正司顯好 (埼玉東萌短期大学教授)

5) 正司 顯好 (しょうす あきよし)

- ・元 公立高等学校教諭
- ・元 東萌保育専門学校 校長
- ・現在 埼玉東萌短期大学 幼児保育学科 教授 学科長
- ・主な著書・論文等
  - ・『三つ子の魂百まで論』 - 傷なわれた三つ子の魂のゆくえ -
  - ・『人間の育ちと言葉の基本関係論 (I) (II) (III)』
  - ・『「紙芝居」を「絵本」との違いから考える』(調査報告) - 現場の保育者の視点を中心として -
- ・公立高等学校教諭時代、ピッコロ演劇学校(日本初の公立の演劇学校・兵庫県知事が学校長)の1期生として、日本の演劇界で活躍中の一流の講師陣から舞台芸術と併せて表現技術を学んだ。現在、短期大学で紙芝居の魅力・演じることの楽しさを学生たちに伝えている。

6) 太田 堯 (おおた たかし)

- ・教育学者
- ・東京大学名誉教授
- ・都留文科大学名誉教授
- ・元 子どもと権利を守る会会長